

野辺地町商工会行動プラン

～テーマ：事業者の持続的な経営に向けた支援～

(1)商工会を取り巻く環境の現状と将来の姿

○自地域の総括的概要と現状課題

当町の人口は現在約1万2千人である。農業・漁業ともに盛んであり、農業ではこかぶ栽培が盛んでおり、2007年に「偏東風と大地の恵み 野辺地はつきこかぶ」として商標登録されブランド化された。漁業では、ホタテガイの養殖漁業が中心となっているが、産業構造に占める農業・漁業の割合は高くない。産業構造の半数以上を占める三次産業の事業者減が近年進んでいるが、依然として雇用の多くは三次産業に依存している。町では「未来につなげる幸せのまち のへじ」を将来像と定め、将来像の実現のために6つの目標と29の施策を掲げている。

○人口動態

人口は、過去20年ほどで約22%(3千3百人余り)減少しており、2040年には1万人以下まで減少するとの推計がでている。また、高齢化も進み、20年ほどで人口における65歳以上の割合も約25%から約40%となり、今後も進むことが想定される。

○商工業者や小規模事業者の動向

過去20年ほどで商工業者数は約33%(290者)減少、ほぼ小規模事業者である。本会独自調査では年率換算で1.93%減となり10年後は451者へ減少する見込みである。

	H13	R3	対比増減	年率換算	R6	R15	R6比
商工業者	874	584	△290	△1.93%	543	451	△92
小規模事業者	866	496	△370	△2.8%	482	401	△85

○その他産業構造など特記事項

町中心部に縦走する国道279号線に沿った一帯に自治会単位で5つの商店会が形成されていたが、現在は4商店会に減少している。古くから周辺町村を含めた商圈の拠点としての役割を担ってきたが、郊外に大型店やドラッグストア等が集積し、商業競争は一段と厳しい状況となっている。

(2)重点推進施策

○基本的な考え方(ビジョン)

本会は、雇用の受け皿となる事業者の事業継続のため、事業承継支援や会員ニーズの掘り起こし等、会員に寄り添ったサービス提供により、地元中小・小規模事業者の持続的発展に貢献するとともに、町全体の魅力向上による地域の活性化を目指す。

○主な重点推進施策

- ・伴走型支援の強化による経営発達支援事業及び経営改善普及事業の実施
- ・小規模事業者の課題解決と経営力を強化する経営改善支援の実施
- ・事業承継支援や創業支援により、小規模事業者の減少の抑制を図る
- ・会員サービスの向上による組織基盤の強化(会員増強)

(3)重点推進施策を推進するための具体的な取り組み

○支援12項目の現状数値と数値目標の達成

支援項目	創業支援	事業承継	経営革新計画	経営力向上計画
現在値	2件	5件	0件	1件
目標値	8件	9件	5件	1件
支援項目	持続化補助金	経営計画策定支援	経営改善普及事業	マル経融資・件数
現在値	4件	10件	2,657件	8件
目標値	13件	23件	1,895件	11件
支援項目	マル経融資・額	記帳継続指導	記帳機械化	労働保険
現在値	46,700千円	72件	60件	311件
目標値	52,808千円	84件	38件	231件

※現在値は令和5年度の値、目標値は10年後の目標値

(4)実施し得る体制(環境)

○あるべき体制

現在、本会は事務局長、経営指導員2名、補助員1名、記帳専任職員2名、記帳指導員1名の計7名で運営している。

令和6年度より3ヶ年計画で商工会館の改修工事を計画しており、それに伴う予算の増加が見込まれており、財政基盤強化が必要である。

(5)体制(環境)づくり(時間軸)

本会独自調査によれば、むこう10年間は補助対象職員の減員は見込まれないが、財政を安定させるために、会員数「400」を下回らないよう努め、現事業者支援体制を維持していく。

(6)特記事項

○町との協調体制の確立と安定的な支援の継続

町が策定した「第6次野辺地町まちづくり総合計画」にある地域内消費や創業を拡大する支援を本会が取り組み、その効果を十分発揮するには、拡大した事業領域や業務を安定的に遂行し得る体制強化が必要不可欠である。そのため、町との連携及び協調体制を強化し、商工会に対する安定的な支援(予算)の確保について確実なものとするため、町当局及び町議会との懇談会を通じて、町当局や町議会議員に対して本会及び本会が取り組む事業について一層の理解を求めている。